



日本電線工業会 阿部茂信 専務理事

— 専務理事に就任しての抱負は？

「歴史ある業界団体の専務理事に就任して緊張しているが、電線の世界に関われることが楽しみです。業界全体を俯瞰し、業界の最適解とは何かを会員各社の皆さまと考えていきたい。工業会については職員の方とのチームワークを第一に考えて、明るく楽しい雰囲気をつくることを目指しています。2年間という限られた任期の中で、工業会の1人の仲間として努力していきたい」

「00年からやってきた、民需の最たるものである自動車用ワイヤハーネスの仕事の経験を生かして、会員とそのユーザーと対話しながら、市場や取り巻く環境の変化に合わせて動きの方向性を示していきたい。具体的にどうしていくかは今後も議論していく」

「電線業界がおかれている環境・課題とは？」
「電線業界の実情が外部の方に正しく伝えられていない部分がある。我々がやっていることを正しく伝えて、さらに深く理解いただきたい。また、業界の課題として、ケーブルの生産数は把握しているが、販売数が把握できていない点が挙げられる。会員および流通業者の協力も得ながら、販売数の把握にも努めたい」

「特に力を入れたい重点活動テーマは？」
「企業支援 商慣習改善 業界の課題に取り組みたい」

「確保であり、工業会ではこれまで高校生向けにパンフレットを作って、電線を知ってもらい、業界をPRする活動を行ってきた。これに加え、外国人労働者を採用できるような許可が取れば良いのではないかと考えている」

「産業用の電線は建設と電販と異なり、使われるところが明確だ。市場によって異なるので、十把一絡げではなく、それぞれの実情を把握していきたい」

「電線不足や盗難の問題は、電線工業会だけでなくさまざまな省庁や業界にも関係している。経産省と相談しながら取り組みを行ってほしい。特に盗難については経産省で規制できないものなのかと考えており、経産省と連携したい」

「エコケーブル・アルミケーブルの普及については？」
「エコケーブルは官公庁向けのプロジェクトではマストになっているが、まだ一般的ではない。学校や地下鉄など人が集まる場所に使用する電線として採用されるようPRしていきたい」

「工業会では納期がかかるものは早めに注文してほしいとお願いしている。また、単に電線が不足していると捉えるのではなく、どの品種が不足しているのかを正確に把握してパニックを防ぎたい。そのためにも、工業会ではこれまで把握してきた生産量だけでなく、今後は商流なども整理して販売量も把握できるようにしたいと強く考えている」

電線不足対策や盗難防止を推進

他団体や経産省と連携

「電線工業会は4つの重点活動テーマを掲げている。特に力を入れているのが『中堅中小企業の経営基盤強化支援』『商慣習の改善』だ。中堅中小企業が抱えている一番の課題は従業員

の確保であり、工業会ではこれまで高校生向けにパンフレットを作って、電線を知ってもらい、業界をPRする活動を行ってきた。これに加え、外国人労働者を採用できるような許可が取れば良いのではないかと考えている」

「産業用の電線は建設と電販と異なり、使われるところが明確だ。市場によって異なるので、十把一絡げではなく、それぞれの実情を把握していきたい」

「エコケーブル・アルミケーブルの普及については？」
「エコケーブルは官公庁向けのプロジェクトではマストになっているが、まだ一般的ではない。学校や地下鉄など人が集まる場所に使用する電線として採用されるようPRしていきたい」

「工業会では納期がかかるものは早めに注文してほしいとお願いしている。また、単に電線が不足していると捉えるのではなく、どの品種が不足しているのかを正確に把握してパニックを防ぎたい。そのためにも、工業会ではこれまで把握してきた生産量だけでなく、今後は商流なども整理して販売量も把握できるようにしたいと強く考えている」

「略歴」阿部茂信(あべしげのぶ)氏1961(昭和36)年9月20日生まれ。福井県出身。85年3月に上智大学外国語学部を卒業し、同年4月に古河電工に入社。00年より自動車部品事業畑を歩む。14年から古河ASAのアジア太平洋子会社(ASEAN・インド)を統括、タイ子会社の社長を務める。16年4月に古河電工の執行役員に就任すると同時に自動車部品事業部門の副事業部門長となり、18年4月から

は事業部門長に。19年4月から古河AS代表取締役社長も兼務し、古河電工では20年4月から執行役員常務となった。24年6月に日本電線工業会専務理事に就任した。

【趣味・休日の過ごし方】本を読んで頭の中の情報を整理しよう心掛けています。またタイエットも兼ねウォーキングで1日1万歩を継続中。